様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０００２４

研究課題名（和文）西洋哲学の初期受容とその展開―井上円了と清沢満之の東大時代未公開ノートの公開―

研究課題名（英文）The Reception and Development of Western Philosophy in Japan in Its Early Stages: The Transcription and Translation of Unpublished Notes of Lectures by Ernest Fenollosa at Tokyo University

研究代表者
村山　保史（Murayama, Yashishi）

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：７０３１０６４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：1878年に東京大学は最初の外国人哲学教師としてフェノロサ（1853-1908）を招聘している。日本美術の評価者として知られるフェノロサであるが、東京大学での担当科目は哲学や経済学であった。彼が講義を通じて明治期の多くの思想家に影響を与えたことは聴講者の回想として伝えられるが、フェノロサの哲学関係の講義録はごく一部を除き未公開のままである。本研究では、井上円了（1858-1919）と清沢満之（1863-1903）が東京大学在学時に受講した哲学関係講義録の一部を翻刻・翻訳してフェノロサの講義内容を公開し、これを通じて日本における最初期の哲学思想受容とその発展の一側面を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
西洋哲学の初期受容の解明に関しては、井上ノートの翻刻（翻訳）を行い、2018年度から2019年度にかけて公開した。また清沢ノートに含まれていたフェノロサの哲学（史）講義のフィヒテ以降部分、ブッセの哲学（古代哲学史）講義、ノックスの倫理学講義の翻刻（翻訳）を行い、2019年度から2020年度にかけて公開した。これらが公開されるのは、はじめてのことである。西洋哲学の展開については、東京大学の哲学教育が私立大学教育にいかに継承されたのかを確認し、その成果を『チャレンジャー井上円了－自分の人生は自分で拓け－』等として公開し、この書は2021年度から東洋大学における理念教育の教科書として使用されている。

研究成果の概要（英文）：In 1878, Tokyo University hired Ernest Fenollosa (1853-1908) as its first non-Japanese instructor in philosophy. Although Fenollosa is known for his evaluation of Japanese art, at Tokyo University he taught on the subjects of philosophy and economics. From the reminiscences of his students, it is clear that his lectures greatly influenced many Meiji-period Japanese thinkers, yet the vast majority of the notes from Fenollosa' s lectures on philosophy remain unpublished. This research project, by transcribing and translating portions of the notes of Fenollosa's lectures taken by Inoue Enryo 井上円了(1858-1919) and Kiyozawa Manshi 清沢満之 (1863-1903) while they were students at Tokyo University, made the content of those lecture available publicly and by doing so clarified one aspect of the process of the reception and development of Western philosophy in Japan in its earliest stages.

研究分野：哲学

キーワード：フェノロサ　ブッセ　井上円了　清沢満之　西洋哲学　近代日本思想　近代仏教　東京大学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

明治初期の東京大学における哲学教育の大半は外国人教師たちによって行われたが、外国人哲学教師たちの講義録は、フェノロサの講義録のごくわずかな部分を除いて長く未公開のままであった。そこで本研究では、清沢満之の遺稿（自筆ノート）に発見された東京大学在学時の外国人哲学教師による哲学関係講義録を翻刻・翻訳して日本における最初期の哲学受容を解明しようとした研究（平成 22 年度～平成 24 年度の科学研究費研究「日本における西洋哲学の初期受容―清沢満之の東京大学時代未公開ノートの調査・分析―」。以下「前々研究」と称する）とそれに続く研究（平成 25 年度～平成 27 年度の科学研究費研究「日本における西洋哲学の初期受容―フェノロサの東大時代未公開講義録の翻刻・翻訳―」。以下「前研究」と称する）を継承展開して、井上円了と清沢が東京大学在学時に受講した哲学関係講義の講義録と学習録を翻刻(翻訳)して外国人哲学教師による講義の内容を公開し、これを通じて日本における最初期の哲学受容とその発展過程の一側面を解明しようとした。

２．研究の目的

本研究の目的は 2 つである。第一に、「一次目的」として、井上の遺稿に発見された井上筆記の複数の哲学ノート、同じく清沢の遺稿に発見された清沢筆記の複数のノートに含まれるフェノロサ、ノックス、ブッセら外国人哲学教師の未公開の西洋哲学関係講義録、および講義に関連する予習復習等の学習録を翻刻（翻訳）して日本における西洋哲学思想の初期受容を明らかにする。第二に、「二次目的」として、井上と清沢が東京大学で学んだ西洋哲学を卒業後にいかに展開し、それぞれ哲学館（東洋大学の前身）と真宗大学（大谷大学の前身）の創設者として高等教育にいかに適用したのかを明らかにする。

３．研究の方法

一次目的を遂行する方途として「研究課題 1a」と「研究課題 1b」、二次目的を遂行する方途として「研究課題 2」を設定した。

研究課題 1a：東洋大学が所蔵する井上の哲学ノートでは従来「稿録（明治十六年秋 稿録 文三年生 井上円了）」のみが翻刻されていた。井上のノートには講義録と学習録が混在しているが、本研究ではフェノロサの講義録を含む可能性のある「最近哲学史」、「英国哲学書」、「古代哲学」を翻刻して公開する。

研究課題 1b：大谷大学真宗総合研究所にはフィルム化・簡易文字データ化された清沢遺稿が置かれ、清沢遺稿に含まれる複数の清沢ノートにはフェノロサ以外にもノックスやブッセの講義録、授業レジュメ、学習録が含まれている。本研究では、前々研究の成果『フェノロサ「哲学史」講義』と前研究の成果『フェノロサ「哲学史」講義（続）』に続いてフェノロサの哲学（史）講義録の残り部分（学習録を含む）を翻刻・翻訳し、研究最終年度に『フェノロサ「哲学史」講義（続々）』として出版する。また並行してノックスの哲学ないし倫理学講義録とブッセの哲学講義録を翻刻（翻訳）して公開する。

研究課題 2：東京大学の哲学教育が私立大学の教育にいかに継承されたかを初期の哲学館と真宗大学における教育の確認を通じて明らかにする。具体的には、両校の設立経緯や建学の理念、初期カリキュラムを分析し、井上と清沢がめざした宗教哲学教育と研究者養成の内実を解明し、研究最終年度に公開する。

４．研究成果

(1) 2018 年度

2018 年度は研究課題 1a と 1b を重点課題とし、ノートを翻刻（翻訳）した。この作業では、井上ノートを翻刻するメンバーと清沢ノートを翻刻（翻訳）するメンバーを選出し、井上ノート関しては「最近哲学史」、「英国哲学書」、「古代哲学」等の 9 冊ノートの翻刻に当たり、まず「古代哲学」の前半部分の翻刻を研究誌に公開した。清沢ノートに関しては、前研究で翻刻・翻訳したフェノロサの哲学（史）講義の部分（カントまで）に続くフィヒテからシェリング部分、ブッセの哲学（古代哲学史）講義の仮翻刻・翻訳をした。

(2) 2019 年度

2019 年度は 1a と 1b を重点課題とし、2 を並行して行った。1a に関しては、2018 年度に引き続き 9 冊の井上ノートの翻刻に当たり、研究開始時に想定していた作業範囲を拡張して、「古代哲学」の後半部分、「最近哲学史」、「Philosophy is meditation」（翻訳を含む）、「英国哲学書」、「心理学」、「論理学」、「稿録乙」、「仏書講録」、「雑稿」の全文を研究誌や国際井上円了学会の「井上円了データベース」（https://www.toyo.ac.jp/about/founder/iecp/enryo/33402/）に公開した。これらの翻刻（翻訳）が公開されるのはこれがはじめてのことである。1b に関しては、フェノロサの哲学（史）講義のヘーゲル部分を仮翻刻・翻訳するとともに、ブッセの哲学（古代哲学史）講義を翻刻・翻訳してその前半部分を研究誌に公開した。ブッセの日本における講義録が公開されるのはこれがはじめてのことである。あわせてノックスの倫理学講義の翻刻にも着手し

た。

(3) 2020 年度

2020 年度は 1b を重点課題とし、1a と 2 を並行して行った。1b に関しては、フェノロサの哲学（史）講義のヘーゲル以降部分と清沢の学習録を仮翻刻・翻訳するとともに、ブッセの哲学（古代哲学史）講義の後半部分の翻刻・翻訳と、ノックスの倫理学講義の前半部分の翻刻を研究誌に公開した。ノックスの講義録が公開されるのはこれがはじめてのことである。1a に関しては、井上と同級生であった金井延の筆記による未公開のフェノロサ講義録を新しく入手（複写のみ入手。原本はイェール大学バイネッキ稀覯本図書館蔵）したことからその内容の確認作業を行い、2 に関しては三浦節夫（執筆責任者）『チャレンジャー井上円了―「自分の人生は自分で拓け」―』（『井上円了の教育理念』東洋大学、1987 年を全面的に改訂したもの）の原稿を作成した。

(4) 2021 年度

新型コロナウイルス蔓延状況を受けて延長期間とした 2021 年度は、ウイルス蔓延状況下においても遂行可能な作業として、1b を重点課題とし、2 を並行して行った。1b に関しては、フェノロサの哲学（史）講義のフィヒテ以降部分と学習録の翻刻・翻訳を完成し、2022 年 3 月 8 日に村山保史（監修・解題）、味村考祐・西尾浩二・Michael Conway（翻刻・翻訳・校閲）『フェノロサ「哲学史」講義（続々）』（222 頁）として発行して研究機関等に配布した。フェノロサの哲学（史）講義のフィヒテ以降の箇所が公開されるのはこれがはじめてのことである。井上や清沢の東京大学時代のノート、そしてそこに含まれる外国人哲学教師たちの講義録が 2 つの研究（前々研究と前研究）と本研究によってはじめて史料として公開されたことによって、ようやく明治初期の西洋思想受容についての多面的な学術的研究が可能になったと考えている。2 に関しては、2021 年 9 月 16 日に『チャレンジャー井上円了―自分の人生は自分で拓け―』を発行し、この書は 2021 年度から東洋大学における理念教育の教科書として使用されている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 三浦節夫	４．巻 1
２．論文標題 近代日本のチャレンジャー―仏者・井上円了と能海寛―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 25周年記念『論集』	６．最初と最後の頁 9-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 狭間芳樹	４．巻 74
２．論文標題 井上円了の護法論とキリスト教―破邪・顕正と新たな仏教の模索―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 キリスト教史学	６．最初と最後の頁 87-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三浦節夫	４．巻 29
２．論文標題 回想の井上円了（一）―『井上円了死亡新聞記事集』を元にして―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 井上円了センター年報	６．最初と最後の頁 53-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 西尾浩二	４．巻 73
２．論文標題 ノックス「倫理学」講義（一）―清沢満之ノックス講義自筆ノートの翻刻―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大谷大學研究年報	６．最初と最後の頁 61-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西尾浩二	4．巻 38
2．論文標題 ブッセ「古代哲学史」講義（二）―清沢満之ブッセ講義自筆ノートの翻刻・翻訳―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西尾浩二	4．巻 38
2．論文標題 【解題】ブッセ「古代哲学史」講義（二）―清沢満之ブッセ講義自筆ノートの翻刻・翻訳―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 柴田隆行	4．巻 57-1
2．論文標題 井上円了の若き学習ノート	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西尾浩二	4．巻 66
2．論文標題 清沢満之と古代哲学―明治前期における西洋哲学の初期受容の一側面―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 哲學論集	6．最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴田隆行	4．巻 28
2．論文標題 井上円了手書きノート(1-1-3-1)「古代哲学」（下）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 井上円了研究センター年報	6．最初と最後の頁 41-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西尾浩二	4．巻 37
2．論文標題 ブッセ「古代哲学史」講義（一）―清沢満之ブッセ講義自筆ノートの翻刻・翻訳―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 1-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 味村考祐	4．巻 37
2．論文標題 論理的必然性と自我を超えるもの―清沢満之自筆ノートから見るフェノロサの論理学派理解―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 131-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村山保史	4．巻 37
2．論文標題 日本における西洋哲学の初期受容―東京大学時代の清沢満之を中心にして―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 現代と親鸞	6．最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴田隆行	4．巻 56-1
2．論文標題 井上円了と社会学	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 東真行	4．巻 67-1
2．論文標題 金子大榮における『歎異抄』観	5．発行年 2018年
3．雑誌名 印度学仏教学研究	6．最初と最後の頁 136-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村山保史	4．巻 65
2．論文標題 暁烏敏の思想―その生成と構造―（一）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 哲學論集	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三浦節夫	4．巻 27
2．論文標題 「井上哲次郎口述東洋哲学史」の翻刻―井上円了の東京大学文学部二年生の聴講ノート―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 井上円了センター年報	6．最初と最後の頁 127-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 柴田隆行	４．巻 27
２．論文標題 翻刻　井上円了手書きノート(1-1-3-1)「古代哲学」（上）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 井上円了センター年報	６．最初と最後の頁 91-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　9件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Conway Michael
２．発表標題 毎田周一と信州の人間教育
３．学会等名 教育思想史学会第30回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 ライナ・シュルツァ
２．発表標題 About Kiyozawa Manshi's Reception of Kant
３．学会等名 11th Annual Meeting of the Society for Cultural Interaction in East Asia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三浦節夫
２．発表標題 哲学館の教育理念と近代仏教
３．学会等名 井上円了没後100年記念シンポジウム「井上円了／哲学館／近代仏教」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライナ・シュルツァ
２．発表標題 フェノロサのカント理解：19世紀英語圏のカント受容を背景にして
３．学会等名 井上円了研究センター公開研究会「明治期の西洋哲学の受容と『哲学雑誌』」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 村山保史
２．発表標題 井上円了とカント
３．学会等名 国際シンポジウム「国際的視野から見た円了哲学」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 村山保史
２．発表標題 清沢満之の宗教哲学
３．学会等名 國際學術論壇「東亜人文社會科學研究的新地平線 人物、文化、思想、海洋與經濟的交匯」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 村山保史
２．発表標題 聴講者ノートから見るフェノロサの哲学―明治前期東京大学における外国人哲学教師の資料調査より―
３．学会等名 井上円了研究センター2018年度第3回公開研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 柴田隆行
２．発表標題 井上円了の学生時代の学習ノート
３．学会等名 井上円了研究センター2018年度第5回公開研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 柴田隆行
２．発表標題 Hegel in Japan
３．学会等名 チューリヒ大学アジア研究所・東洋大学井上円了研究センター共催コロキウムPerspektiven der modernen japanischen Philosophie（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ライナ・シュルツァ
２．発表標題 Fenollosas Kantkritik. Ueber die Anfaenge der japanischen Kantrezeption
３．学会等名 チューリヒ大学アジア研究所・東洋大学井上円了研究センター共催コロキウムPerspektiven der modernen japanischen Philosophie（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 三浦節夫、柴田隆行、ライナ・シュルツァ、岩井昌悟他	４．発行年 2019年
２．出版社 教育評論社	５．総ページ数 398
３．書名 論集　井上円了	

１．著者名 三浦節夫	４．発行年 2021年
２．出版社 学校法人東洋大学	５．総ページ数 256
３．書名 チャレンジャー井上円了－自分の運命は自分で拓け－	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本における西洋哲学の初期受容とその展開－井上円了と清沢満之の東大時代未公開ノートの公開－
http://www3.otani.ac.jp/manshi/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三浦　節夫 (MIURA SETSUO) (50584249)	東洋大学・ライフデザイン学部・教授 (32663)	
研究分担者	柴田　隆行 (SHIBATA TAKAYUKI) (20235576)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	削除：2020年5月14日
研究分担者	シュルツァ　ライナ (SCHULZER RAINER) (90622936)	東洋大学・情報連携学部・准教授 (32663)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩井　昌悟 (IWAI SHOGO) (40398839)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	
研究分担者	西尾　浩二 (NISHIO KOJI) (20510225)	大谷大学・文学部・講師 (34301)	
研究分担者	Ｃｏｎｗａｙ　Ｍｉｃｈａｅｌ (CONWAY MICHAEL) (70549526)	大谷大学・文学部・准教授 (34301)	
研究分担者	味村　考祐 (AJIMURA KOUSUKE) (90823245)	大谷大学・文学部・非常勤講師 (34301)	
研究分担者	狭間　芳樹 (HAZAMA YOSHIKI) (80588046)	大谷大学・真宗総合研究所・研究員 (34301)	追加：2020年5月14日
研究分担者	東　真行 (AZUMA SHINGYO) (00802878)	大谷大学・文学部・助教 (34301)	削除：2019年6月13日

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関